

旧町名についてのエピソードや まちの今昔を聞きました。



土橋さんの話に基づき、街に住んでいる方々に旧町名の由来についてお話を聞きに行きました。現地を訪れることで、今まで気づかなかった街の歴史が見えてきました。



池があった場所(現在の様子)

池之町の山本眞也さんに聞きました 池之町には池が存在した。

旧町名の由来にもある池は、現在の前田仏具店さんの辺り（P4 地図参照）にあったといえます。山本さんの幼少期には既に埋め立てられていたようですが、山本さんのお父さんの話によると、山本さんのお宅の3倍はありそうな、それは大きな池だったそうです。そんな大きな池が町中にあったという事実にとっても驚きました。



須崎町の近持孝一さんに聞きました 大川端は埋立地。

三洋漁具の辺り（P4 地図 A 地点）は「大ドブ」（今でいう小河川）があり、大ドブの工事中の写真から護岸の石の積み方が違うことがわかります。右側が安政の大津波以前の古い石積みで、左側が大津波後に被災した石材等を再利用しながら下田町が復興したときの石積みだそうです。津波によって町は壊滅しましたが、残った人々によって町は更に大きくなって復興したことがわかり、昔の人々の強さを感じます。



壁面が中央を境に左と右で石の組み方が違うのがわかる

大工町の金澤順子さんに聞きました 大工町の船大工の存在を今でも感じます。

その昔、船大工が多く住んでいたために大工町と呼ばれることになったと聞いているそう。土藤ギャラリー2階の天井にある梁が、船底をひっくり返したような湾曲した形になっていることから、大工町に住んでいた船大工による建築なのではないかと聞きました。梁が湾曲しているため、2階がより広く感じられ、昔の大工さんの技巧に触れることができました。



船の底をひっくり返したように見える小屋組

須崎町の近持孝一さんに聞きました ガンゲって知っていますか？

稲生沢川と民家の間には石積みがあり、その石積みが階段のように川へと続いていた部分を「ガンゲ」と呼んだそうです。稲生沢川沿いの町では、伝馬船（てんません）をガンゲに着け、人の乗り降りや物の上げ下げをしたり、住民が洗い物をするのに利用したりと生活の場となっていたそうです。現在は戦後の河川改修により見られませんが、道路の下にガンゲが眠っているのではと考えると浪漫を感じます。



左写真：大工町の土藤酒店さんにあった陶板。描かれている絵は下田ではありませんが、ガンゲのイメージとして参考になります。荷物を下ろしている風景が見てとれます。右写真：なまこ壁の家「雑忠（さいちゅう）」の東側の壁。当時は道路ではなく、こちらに川があったと言われています。川に面した扉のおかげで、ガンゲと同様、家の中に荷物を入れるのに大変便利だったことがわかります。

市街にあった歴史的建物写真



© 加藤友規

旧下田魚市場

現在はまどが浜にある魚市場は、かつて街中のみなと通りにありました。



© 中村博

映画館

大横町にあった映画館「みゆき館（左）」。当時は市街に映画館が3館あったそう。



旧賀茂郡役所

現在のマイマイ通りの NTT の場所にありました。大きな建物に瓦の大屋根が圧巻です。



船田万太夫撮影 油画茶屋所蔵

旧下田小学校

現在の下田市民文化会館の場所にありました。なまこ壁と瓦屋根の上の塔屋が特徴的です。



船田万太夫撮影 油画茶屋所蔵

旧下田町裁判所

下見貼りの壁面。漆喰塗りの玄関が特徴的です。中央上には菊花紋が見えます。



船田万太夫撮影 油画茶屋所蔵

旧下田警察署

和洋風の建築。アーチ状の窓が特徴的です。現在の教育委員会の場所にありました。